

## 【レポート】

Adoの国立競技場でのライブをききながら、人口減少問題について、つれづれなるままに、心に移りゆくよしなし事を、そこはかとなく書きました。

# 大子町は国立競技場を満員にできるのか

## — モンベルショップという名のハブ空港 —

茨城県本部／大子町職員組合 高村 喜尚

### 1. 人口減少が止まらない

国立競技場を満員にできる自治体がどれだけあるのだろうか。

波のような群衆のなかで、私は一抹の寂しさを感じていた。「Adoのライブに行きたい！」と小学生の娘にせがまれた。普段は茨城県の片田舎の1学年が10人程度の小学校に通っている。人の多さや世界の広さを感じてもらいたいという親心もあって、はるばる国立競技場までやってきた。

ライブの観客は2デイズで14万人以上とのことなので、1日あたり約7万人になる。私が働く大子町は人口14,683人（2024年8月1日現在）なので、この国立競技場の2割ぐらいしか埋められない。1950年に44,598人だった人口はそこをピークに右肩下がりで減り続けていて、下げ止まる気配もない。

人口の減少が止まらない。C-C-Bの「Romanticが止まらない」ではないが、胸が、胸が苦しくなる。

大子町は高齢化率が49.25%（2024年8月1日現在）と茨城県内で最も高い。2人に1人が65歳以上である。茨城県とその県北地域に位置する大子町がどういう状況なのかは、次の茨城新聞の記事を紹介したい。

茨城県人口、62万人減 2050年推計 増加3市 大子町は6割減（茨城新聞クロスアイ 2023年12月23日）

国立社会保障・人口問題研究所が公表した地域別推計人口で、茨城県の2050年の人口は2020年と比べて21.7%のマイナスで、62万人減の224万人となる。市町村別では44のうち41市町村で減少。減少率が最も大きいのは大子町の60.4%で、1万5,700人から6,200人となる。

推計人口の公表を受け、大井川和彦知事は「強い危機感を感じている。引き続き人口減少に耐えうる県の構築を目指し、生産性を向上させるとともに、社会基盤の整備に重点を置いて先手先手で取り組む」との談話を発表した。

大子町に次いで減少率が大きいのは河内町の52.7%で、2020年の8,200人から3,900人まで減る。稲敷市は50.9%で1万9,100人に、城里町は49.1%で9,200人となると推計される。

一方、人口が増加するのは3市。つくばみらい市が13.0%プラスで、全国の市区町村で9番目に大きい。2020年の4万9,800人から5万6,300人に増える。守谷市が11.4%で7万6,200人に、つくば市が6.0%で25万6,100人となる。

つくば市は2035年時点で26万人を突破し、以降は減少傾向にある水戸市を上回り県内最多となる。

65歳以上の高齢者の割合は、2050年は県全体で40.0%、2020年の29.7%から拡大。大子町の63.6%が最も多く、城里町が58.8%、河内町が57.6%と続く。

50年の生産年齢人口 茨城県内、15市町村で半減 大子は72%減（茨城新聞クロスアイ 2024年2月12日）

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が公表した地域別推計人口で、2050年時点の15～64歳の生産年齢人口を2020年と比べたところ、699市町村が半数未満に減ることが2月11日、分

かった。共同通信が公表データを分析した。茨城県内で半数未満に減るのは、全体の3割に当たる15市町村だった。県北地域の全6市町で半数未満に減少する一方、県南地域の2市では増加となった。

社人研の推計によると、2050年時点の県内生産年齢人口は113万9,359人となり、2020年の168万1,662人から32.2%減少する見通し。

～(中略)～減少した42市町村の減少率の内訳は、70%台が1町、60%台が6市町、50%台が8市町村、40%台と30%台が各9市町、20%台が8市町村、1～10%が1市だった。

県内市町村人口減少率(%)	2020～50年の比較		県内市町村の生産年齢人口の増減	
	大子町	60.4	70以上～80%未満減	(1町)
	河内町	52.7	60以上～70%未満減	(6市町)
	稲敷市	50.9	50以上～60%未満減	(8市町村)
	城里町	49.1	40以上～50%未満減	(9市町)
	利根町	47.7	30以上～40%未満減	(9市町)
	桜川市	47.6	20以上～30%未満減	(8市町村)
	常陸太田市	47.1	0以上～10%未満減	(1市)
	高萩市	46.5	10%未満増	(2市)
	行方市	44.9		
五霞町	44.0			

(社人研の推計人口から作成)

(表は茨城新聞クロスアイ 2023年12月23日、2024年2月12日より)

分かりやすいように2020年を人口100人の町だったとしよう。働く人(生産年齢人口)は46人いた。それが2050年には人口は40人になり、働く人は13人しかいなくなる。

大井川知事ではないが、極めて危機的な状況にあると思う。何とかしなくてはいけないと思う。これだけ人口が減ってしまうと、今まで当たり前でできていたことができなくなってしまう。

では何をすればいいのだろうか。日本全体が人口減少という不治の病にかかっているとすれば、すべてはそれを和らげる対症療法であり、小さな自治体の取り組みなど意味をなさないのではないか。移住定住政策はどこの自治体でもやっている。日本全体で人口が減るなかで、自治体間で人を奪い合っている。ありきたりの政策ではレッドオーシャンに飛び込んで溺れるようなものではないのか。

Adoのライブのオープニングの曲は「うっせえわ」だった。妙に次の歌詞が胸に突き刺さった。

はあ? うっせえ うっせえ うっせえわ あなたが思うより健康です  
一切合切凡庸な あなたじゃ分からないかもね

## 2. 出生率1.20

「お父さん、過学習ってなに？」

「うーん、勉強しすぎると馬鹿になっちゃうことかな……。」

「お父さんみたいな人のこと？」

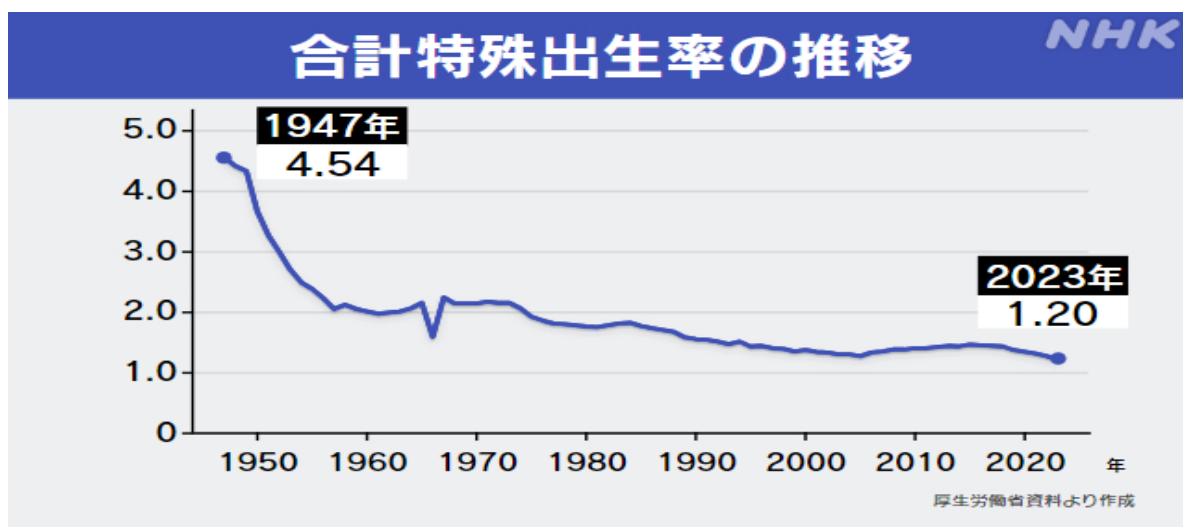
「……。」

ライブの序盤に「過学習」という曲があった。過学習、過剰適合を小学生に説明するのは難しい。そしてこの曲の歌詞はとても難しい。

人口減少の解決も難しいのだろうか。もう移民を受け入れるしかないという人もいるだろうけど、私は根本的な解決策は一つしかないと思う。

出生率を上げる。人口減少対策は少子化対策とほぼ同義であり、これ以外に解決策はない。

厚生労働省の2023年の「人口動態統計」によると、1人の女性が一生のうちに産む子どもの数の指標となる「合計特殊出生率」は1.20となっている。人口の維持には2.06程度の出生率が必要であるので、極めて厳しい数字と言わざるを得ない。



(表はNHKニュースウェブ2024年6月5日 去年の合計特殊出生率1.20で過去最低に 東京は「1」を下回るより)

では、どうやったら出生率が上がるのであろうか。

これには子どもの出産と育児を社会全体が応援する精神と構造が必要であると考えます。出生率を上げる特効薬のようなものはないため抽象的な表現になってしまったが、考えられるありとあらゆる施策を実施すべきだと思う。

政府も本格的に人口減少対策に取り組み始めている。岸田首相が2023年1月に「異次元の少子化対策」を表明し、児童手当など経済的支援の強化、学童保育や病児保育・産後ケアなどの支援拡充、働き方改革の推進など様々な施策を実施している。

人口減少対策は日本全体の問題であるのだから、政府が予算を組んで対応すべきである。そこに自治体の独自色はいらない。自治体は国の施策を推進していけばよい。

私もそう思っていた。次の曲を聞くまでは――。

### 3. 新時代

新時代はこの未来だ 世界中全部 変えてしまえば変えてしまえば

ライブは佳境にはいついた。Adoの力強い声が国立競技場に響き渡る。

何かを変えないと未来は変わらない。指を咥えて人が減るのを傍観してはいけない。きっと国が何とかしてくれると楽観的になってはいけない。何をやっても無駄だと悲観的になってはいけない。

確かに自治体単位で出生率を上げるのは難しい。移住定住政策に注力して人口を増やすのも容易ではない。大子町のような小さな自治体にとって定住人口を増やすというのはとてもハードルが高い。

しかし、交流人口は増やせる。定住人口が増えないのであれば、交流人口を増やすほかない。

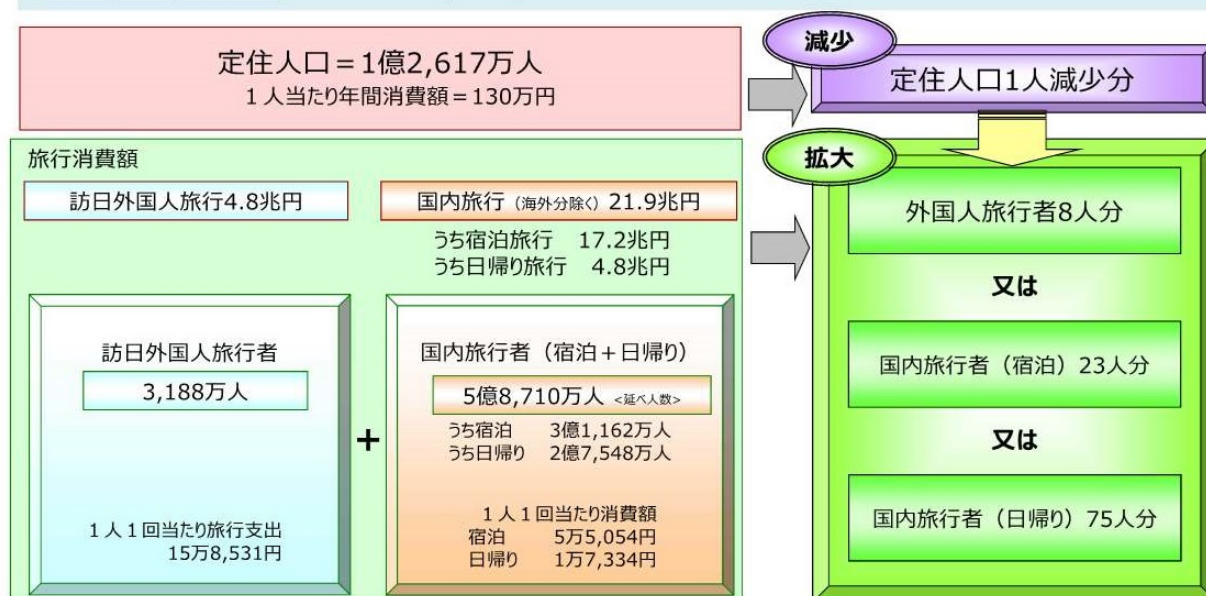
人口減少が引き起こす諸問題のうち、地方経済の衰退が最も深刻な問題である。人口が減ることにより、小売や飲食などの生活関連サービスが縮小する。税収減少により行政サービスの廃止や有料化、鉄道や路線バスなど公共交通の撤退や縮小、地域コミュニティの機能停止などが起きる。

縮小スパイラルは交流人口を増やすことにより止めることができる。次の観光庁の観光交流人口増大の経済効果の資料を見て欲しい。

## 観光交流人口増大の経済効果（2019年）



- **定住人口1人当たりの年間消費額**（130万円）は、旅行者の消費に換算すると**外国人旅行者8人分、国内旅行者（宿泊）23人分、国内旅行者（日帰り）75人分**にあたる。



（観光を取り巻く現状及び課題等について 令和3年11月25日 観光庁 P5より）

定住人口が1人減ったとしても、その年間消費額は外国人旅行者8人、または国内旅行者（宿泊）23人、国内旅行者（日帰り）75人で補える。最も現実的なのは宿泊をする国内旅行者を増やすことであろう。

ライブはちょうど本編が終わろうとしていた。

*Do you wanna play?* リアルゲームギリギリ

綱渡りみたいな運命 認めない戻れない忘れない

夢の中に居させて *I wanna be free*

見えるよ新時代が 世界の向こうへ

さあ行くよ *NewWorld*

### 4. モンベルショップという名のハブ空港

国立競技場は7万人のアンコールの声がこだましているが、大子町のNewWorldに行こう。

大子町は2021年10月13日に株式会社モンベルと包括連携協定を締結した。大子町と株式会社モンベルが、アウトドアアクティビティ促進等により、地域の活性化及び町民生活の向上に資することを目的とした内容となっている。



(左：(株)モンベル 辰野勇 代表取締役会長 右：茨城県大子町 高梨哲彦 町長 2021年10月13日 包括協定締結式より)

協定式でのコメントが大子町のホームページに掲載されていたので紹介したい。

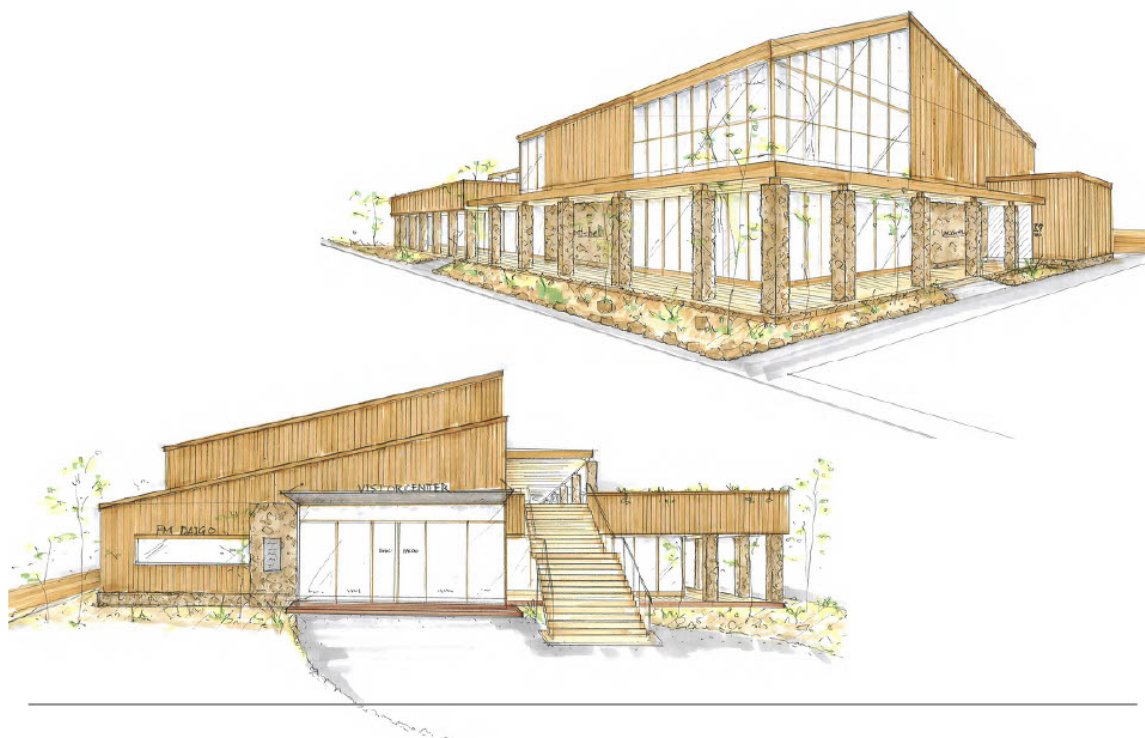
辰野会長「連携の基本の趣旨は当社の掲げる7つのミッションであり、どれひとつとっても我が国の課題を克服していくキーワードとなっている。縦割りで解決できない問題があれば当社で培った横のネットワークをフルに活用して連携を広げ、アウトドアというジャンルを通して克服していきたい。」

高梨町長「現在、行政は官民が連携し、挑戦をし続けることが求められているとともに、大きな変革の時期を迎えている。大子町の自然資源を生かし、モンベル様との連携事業を行うことで、地域活性化を図りたい。」

#### 連携事項

- ① 自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関する事
- ② 子どもたちの生き抜いていく力の育成に関する事
- ③ 自然体験の促進による健康増進に関する事
- ④ 防災意識と災害対応力の向上に関する事
- ⑤ 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関する事
- ⑥ 農林水産業の活性化に関する事
- ⑦ 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関する事

これは単なる協定でない。現在建設中の防災対応型観光交流施設にモンベルが入居する。大子町にモンベルショップができるのである。



片田舎の町にモンベルショップができたところで何が変わるのだろうか。よくある観光のハコモノ施設が増えただけではないのか。ユニクロは毎月いくけど、モンベルは毎月いかない。採算がとれないのではないか。

耳を澄ませばこんな声がきこえてくる。物事を表面しかみていない。正義も真実も多面的である。上から見なければ理解できないこともある。太子町にこれからできるのはモンベルショップという名のハブ空港である。

観光客にはこのモンベルショップにまず着陸してもらおう。そこからアウトドア体験行きの飛行機に乗り換えてもらおう。宿泊をして観光を楽しむ旅行者が増えていく。

太子町はアウトドアの観光資源に恵まれている。アウトドアコンテンツに競争優位性を持っている。

キャンプをするなら太子広域公園オートキャンプ場グリーンヴィラがある。登山をするなら茨城県最高峰の八溝山がある。サイクリングをしたいなら道の駅奥久慈だいでレンタサイクルがある。釣りをしたいなら久慈川で鮎が釣れる。お茶摘み田植え稲刈りなどの農業体験もできる。

アウトドアはファミリーで楽しむことが多い。様々な体験型の観光コンテンツを行き先として提供することにより、モンベルショップに人々が集まってくる。

## 5. 心 臓



ライブのアンコールの最後の曲は「心という名の不可解」であった。はじめて聞いた曲であったが、鳥肌が立つぐらい素晴らしかった。静寂が叫んでいるような感じを受けた。

「心音を吐いてる」という歌詞がとても印象に残った。自治体も人と同じように心音を吐いているのだろうか。

Adoの国立競技場でのワンマンライブのタイトルは「Ado SPECIAL LIVE 2024『心臓』」であった。ライブのなかでAdoは次のように言っていた。

ボーカロイドと歌手が私の「心臓」なんです。この素晴らしい文化がより世界に伝わってほしいと願っているのです。

モンベルショップとアウトドアが大子町の人口減少対策の「心臓」となる。

私には見える。国立競技場を満員にする、この町の未来が――。